全国保育実践交流連絡会　　茨城地区ニュース　　2024年３月

今年度は交流リズムや交流合宿、交流自然体験、また部会や学習会などを行うことができて、子どもたちも大人も深め合い学び合うことができました。２月の交流合宿最終日には「祝う会」を行い、保護者とともに子どもたちの成長を喜びました。

＜交流リズム＞

今年は例年通り会場になっている保育園でリズムができました。９月のリズム合宿は暑さもあり、子どもたちの体調に配慮しながらも他園からの刺激を受け、仲間と共にたくさんの事を経験しました。２月には保育園ごとのグループから今までのように８園がバラバラになったグループでリズムをしました。子どもたちの絆がさらに深まり、２月の最後の合宿では大勢の大人に見守られて、堂々とした姿を見せてくれました。大人もよい刺激となり、やっと以前のような交流ができるようになったことを実感した１年間でした

＜自然体験＞

茨城は、海山川に恵まれすぐに行ける場所がたくさんあります。今年の夏も高萩の関根前川を交流園が２グループに分かれ川のぼりを楽しみました。また、参加できる交流園５園～6園で、夏は、栃木の那須甲子合宿、秋は福島の磐梯合宿に行ってきました。本当の自然を求め散策を行いましたが、2023年は全国でも熊の被害が多く聞かれた年でもありました。自然を求めれば、その分リスクも増えます。まずはしっかり命を守るということを第一に考え、熊情報を現地の人と共有し進路を変更し、必ず熊よけの鈴を携帯して歩きました。中には熊よけのスプレー持参の方も…交流園のたくさんのお父さん達が先頭と最後に立ち、体を張って同行してくれたことは、子どもたちも私たち保育士も心強く、散策を楽しむことができました。本当に感謝でいっぱいです。

＜スーホの白い馬の朗読と馬頭琴の演奏＞

11月８日に、たんぽぽ保育園で「スーホの白い馬」の朗読と馬頭琴の演奏を聴きました。今年度で５年目になります。当初から朗読家は見澤淑恵氏、奏者は嵯峨治彦氏です。近年３年間はコロナ感染症対策のため、コンサートホールを借りての公演会でしたが、５類に移行したことにより保育園で実施することができ、馬頭琴の音色に合わせて、ホールの中を馬になって走ることもできました。講師の先生からも「園での開催は、身近に園児さんたちと会話するように読み聞かせができて、良いですね」と感想をいただき、朗読家・奏者との距離の近さが、より豊かな体験に繋がりました。公演の内容は　＊絵本の読み聞かせ「も

けらもけら」「キャベツくん」「すーべりだい」＊「スーホの白い馬」朗読と「馬頭琴」の演奏　＊「馬頭琴」の楽器説明とソロ演奏及び「馬頭琴」の音色に合わせた乗馬体験　＊「ひびけ草原の歌」斉唱

～　年長担任の感想より　～

・本物の馬頭琴の音色とともにお話が進んでいくので、競馬の場面等では、あたかもその場にいるような臨場感や躍動感を味わうことができました。

・馬頭琴の音色があることで、お話を聴くだけでは感じ取り切れない　柔らかさ、緊張感、悲しみなどの雰囲気も感じることができました。朗読と演奏が一つになって、お話の世界がより子どもたちの心に響きました。

＜森は生きている観劇＞劇団仲間

令和６年１月８日（月）にひたちなか文化会館で行いました。
茨城の子どもたちに良い児童文学を見せてあげたいという思いから誕生した「森は生きているを見る会」ですが茨城での上演も今年で 24 回を迎えることができました。素晴らしい舞台や美しい音楽に時代や世代を超えて多くの人が魅了される名作であることを実感しています。今回は福島の姉妹園の年長さんたちにも来て頂き一緒に観劇できたこと、とても嬉しく思っています。子どもたちは終わった後も劇の余韻に浸り、劇の中で歌われていた尾みじかや 12 月の歌を歌ったり踊ったり劇遊びをしたりして楽しんでいます。これからも子どもたちに良い文化を継承していくため継続して取り組んでいきたいと思います。

＜年齢部会＞

今年度の夏の部会は、春の全国研の学びから「保育について語り合う」ことから始めました。お菓子を準備して話しやすい雰囲気にするなど工夫をしましたが、なかなか“盛り上がる”ところまでは難しい年齢の会もありました。それでも、悩みなど出されて同じ悩みを持つ保育士がいることにその年齢の特徴などが学べました。秋の部会は各年齢の発達を踏まえての実践として目の前の子どもたちにどんな手立てをしていったかなど各園発表し、その後意見交換をしました。今年はインフルエンザなどの流行により１歳３歳５歳の部会は WEB になりました。WEB でしたが活発に質疑応答がされ、各園学びが深まった部会でした。

＜大人のリズムとうたの学習会＞

大人のリズムとうたの学習会を、今年は４月と３月の２回行いました。４月は今まで通り、基本のリズムとうたを取り組み、３月８日に年長後半のリズムと、歌は卒園期のおはなしの中から、５作品を園長が１作受け持ち、おはなしの内容やそれにまつわる話や、おはなしに出てくるうたを 1～2 曲ずつ歌いました。「うたは知っていても、おはなしの内容はわからなかった」という保育士が半数以上いて、「内容を知って歌うと、より歌に寄せる思いを込めて歌うことが出来た」と感想が寄せられました。卒園期のリズムは保育士経験年数で４グループになって動いてみました「久しぶりに体を動かして気持ちよかった」と、楽しく学べました。来年度も取り組みたいと思います。